

税に育てられたわたしたち

東温市立川内中学校3年 柿坂 千咲子

新しい教科書が好きだ。新学期の初め、あの独特の紙の匂いに、胸が高鳴る。まっさらな教科書は、これからの一年を共に歩いてくれる相棒のような存在に思えて、なんだかわくわくしてしまう。ある年の春。私は、先生からもらった新しい教科書に名前を記入しようと、教科書の裏側を見た。すると、こんな文章が目にとまった。「この教科書は、これからの日本を担う皆さんへの期待を込め、税金によって無償で支給されています。大切に使いましょう。」私は、新しい教科書が毎年手に入ることに、今まで何も疑問を抱いてこなかった。当たり前のことだと思い込んでいたことに気が付いた私は、教科書について調べてみることにした。

最初に驚いたのが、世界中すべての国で教科書が無償で配布されるわけではないということである。オランダや欧米諸国は、教科書を有償で配布したり、使いまわしたりしている。貧しい家は、教科書を購入する余裕などない。教科書どころか、学校に通わせることすら困難だ。また、使いまわされている教科書はもちろん綺麗ではないし、書き込みなどもできない。日本に住んでいる私には、到底信じがたい事実だった。

しかし実際のところ、教科書だけを渡されても、私たちは学ぶことができない。それはなぜか。学習するには、学習に適した「環境」が必ず必要だからだ。私たちが学ぶ場所である校舎や体育館やプール、そして教室の黒板や椅子や机、今やなくてはならないものの一つとなったパソコン……。今挙げたもの全て、税金でまかなわれたものである。「税」によってこれら全てを使用することができている、と意識しながら生活してきた人は、果たしてどのくらいいるのだろうか。正しい税の使い方を学び、ありがたさを噛みしめて生活していくことは、私たちが大人になるうえで必要不可欠なのではないかと思う。

「税」と聞くと、なんだか堅苦しくて、遠い存在のように思えてしまう。しかし、そうではない。私たちの生活には、税によってもたらされたものがたくさんある。誰かが納めた税金で、私たちは教科書を手に入れることができる。学ぶことができる。大人になることができる。このありがたさ、素晴らしさ、尊さを、一人一人が噛みしめて生きていってほしいと、強く思う。豊かな国、日本に生まれた私たちだから、今、当たり前のように学ぶことができる。この奇跡を、当たり前と思ってはならない。私たちは、未来を「期待」されているのだ。税によってもたらされたものを使用するということは、そういうことなのだ。誰かの税金で育てられた私たちは、そう遠くない未来で、誰かを育てるための税金を納めていかななくてはならない。これからの未来を担う若き命のために税金を納めることが、恩返しと言えるのではないだろうか。